

「秋の日はつるべ落とし」と言われるように、日が暮れるのが早くなってきました。今頃の時期は16時45分頃に日の入りとなります。今期の部活動も終了となり、5時間授業の日は14時40分、6時間授業の日は15時30分が下校時刻です。

学校から帰るときは友達との会話も弾み、楽しいものですが、寄り道や長い時間の立ち話をしている児童がいるとの報告を受けることがあります。また、駐車場で遊んだり、指定された通学路以外の道を通ったりしている児童も時折見受けられます。こうした迷惑な行為や事故につながる危険な行為等は学校でも随時指導していますが、子どもたちの意識が変化し、行動に表れなければ指導が浸透したことはありません。子どもたちの心に迫る具体的な指導の在り方を検討し、継続していくことが必要だと痛感しています。千葉県警の調査（令和2年3月）によると、過去5年間における小学生の歩行中における交通事故の特徴として、1、2年生の死傷者が最も多く、新入学期の4月、通学に慣れた5月、日没が早くなる10月に交通事故が多発する傾向があるとのこと。時間帯は午前7時台、午後3時台～5時台に多発し、事故原因の約4割が飛び出しによるものとなっています。この時期の登下校時間は交通事故が増える傾向にあるということです。

校舎内でも走り回っている児童をよく注意しますが、これらの行動は道路への飛び出しにもつながるのではと危惧します。自分の行動が周りの人への迷惑になったり危険を及ぼしたりしていないか、少し立ち止まって振り返らせることが大切だと感じます。子どもたちの安全安心な学校生活のために、これからも学校・家庭・地域が連携して行きたいと思えます。

（角田）

